

平成27年度 第4回地域支援ネットワーク部会 議事録

- 1 日 時：平成28年1月27日（水）午後1時30分～2時45分
- 2 場 所：区役所第2会議室
- 3 委 員：出席：[常任委員]：小林、犬飼、田坂、横井、高松
[専門委員]：高山、酒井、高柳、山田、松田
欠 席：[専門委員]：加納、岩田
事務局：[緑区役所]：三和福祉課長、伊藤福祉係長、伊藤介護保険係長、
林介護保険給付・地域包括ケア事務嘱託
[徳重支所]：水野区民福祉課長、斎藤福祉係長
[緑保健所]：欠席
[緑区北部いきいき支援センター]：杉浦
[緑区南部いきいき支援センター]：服部

4 発言の内容

議題に入る前に、写真の撮影、録音について事務局より説明した。

(1) 議題1 平成27年度事業報告について

[福祉課長] 資料1により説明

[部 会 長] 私の学区にて見守りシートのモデル実施に取り組んでおります。モデル実施では、自分の身内にシートを送っていいと言って下さる方にシートを送りました。民生委員の関わりから考えると、シートを送ることが出来た方は非常に安定した生活を送っている方がほとんど。逆にシートを送られるのは嫌だ、まずいという方のなかに家族との問題を抱えているのではないかと、と思われる人が多く含まれていた。また、実際にシートを送ったもののシートを受け取った家族からは、現時点で誰からも何の連絡もない。シートを送ることに同意をされない方を何とか説得するなど来年度は、考えていかないといけないかな、と考えている。

[横井委員] このシートを対象者に渡したのは誰か。民生委員ですか。

[部 会 長] 学区の民生委員は、見守りの対象者にシートを送ることの同意を得ることを行ったのみ。それ以外は全て福祉課が行った。

(2) 議題2 平成28年度事業計画（案）について

以下の審議の後承認された平成28年度事業計画は、平成27年度事業報告とともに第2回地域包括ケア推進会議（2月24日開催）で部会長により報告予定。

[福祉課長] 資料2により説明

[高柳委員] 基本方針2の見守り協力事業者の新規登録を増やすために、10月に

郵便局、名鉄、JAみどりに事業説明を行っているが、1月21日現在登録がない。来年度にはご登録いただけるのか。

[福祉係長] 郵便局は現在登録手続き中で区内全局17局登録予定。JAみどりは顧客が農業に限定されるため遠慮したい、とのことでした。名鉄は緑区内4駅の管轄は金山駅で、金山駅から名鉄鉄道に確認をしていただくことができ、名古屋鉄道全体として手続きされないという回答を戴いた。なお、郵便局は市内全局が登録、また、追加情報として東邦ガスも名古屋市役所で登録の途中で聞いている。

[高柳委員] 名鉄には何を期待したのか。

[福祉係長] 区役所で見守り対象としているひとり暮らし高齢者の中には、普段電車を使っても使い慣れた駅で降りることができず岡崎まで行ってしまい岡崎の警察から区役所に連絡が入ったり、券売機で切符を買えない、切符とICカードがわからなくて改札で困っているという事例がある。名鉄にも見守りのネットワークとして加わっていただきたく事業説明にうかがった。

[山田委員] 取組内容3の事業内容は、私が説明するということか。

[福祉課長] 事務局で準備はするが、普段ご協力いただいている新聞店に日頃どのようにされているか、お話ししていただくとよいかと考えている。

[福祉係長] 実際に66の見守り協力事業者登録があるが、稼働状況は新聞店が一番多い。区役所への連絡FAXも非常によいタイミングでいただいている。仕組みとしての形は整っているが、具体的にこんな状況だと危ない、これならまだ待てる等の判断など、区役所とやり取りが多い新聞店にぜひお願いできれば、と考えている。

(3) 議題3

○ホームページについて

[福祉係長] 進捗状況報告

○なごやかクラブ緑 平成27年度寿大学について(案内)

[犬飼委員] 資料3により説明

(4) 情報交換

[高松委員] 新聞店による地域の見守りとしてどのようにしていますか。

[山田委員] 見守り登録事業の前から取り組みは始めている。朝配った新聞が翌朝も残っている場合は何かあったのかも、ということで登録されている身内の方に連絡していた。実際に連絡すると、距離があり見に行けない等により、警察や民生委員に連絡していた。現在では、新聞店に連

絡先を登録していない高齢者も気をつけている。旅行で不在だが新聞を止めていない場合などは連絡したことでトラブルになることもある。やみくもに連絡せず様子を見ながらしている。配達、集金、訪問スタッフとも高齢の方や足腰が悪い方には日頃から注意するようにしている。

[犬飼委員] 老人クラブでも友愛事業として見守りをしているが、この事業に登録するクラブが減ってきている。事業について「見られているみたいで嫌」と言われたりする。

[松田委員] 市営住宅でも新聞店に助けられている。公社も親族の連絡先を把握しているので新聞店との協力ができると助かる。

[山田委員] 区役所は土日休み、地域の民生委員さんは連絡がとりやすい。最近は、民生委員に連絡し、民生委員から警察や区役所へ、と動きが早い。

[松田委員] 「孤立死を生まない地域社会」が大テーマ。他区の市営住宅には、認知症のひとり暮らし高齢者が、ボヤをおこしたり、漏水で下の階に迷惑をかけたり、ということがある。近所に迷惑をかけることが増えており隣近所の声かけや助け合いなど、見守りの中で何かよい方法がないかと考えている。

[高山委員] ネットワークは一重でなくて多重がよい。平子学区で、認知症についてみんなで話し合う場を設定したら、この先自分が認知症になるのでは、と心配している人ばかり集った。認知症の家族は来られなかった。二回目は「認知症にならないために」予防を考える会になり、自己診断テストをして皆大丈夫だった。認知症を心配する会ではなく、自分たちで予防しよう、という集まりになっている。当初は、2か月に1回の予定が、2週間に1回くらいの勢いがある。

[横井委員] 夫が認知症だが本人たちはそう思っていない夫婦がいる。周囲の人は心配してどこかへ相談に行こうと声をかけるが、例えば、認知症カフェのように認知症という名前がついていると、そこに行ったら認知症と思われる、恥ずかしいから行きづらいと言われる。

[部会長] うちあけることができず、閉じこもってしまうこともある。

[高山委員] 認知症の方が暴力的になったりすると、その人をおいて、家族が引越したり、離婚したりする方もいる。困っていたらオープンにして、言えるようにする環境作りが大切だと思う。

[松田委員] 身内が協力する気持ちでいてくれるとよい。見守りシートも同じで、身内が協力的でないとうまく進まない。そこをなんとかしていきたい。

[部会長] 市営住宅関係もいろいろ連携をとりながら協力してやっていきたい。

以上